

◎景気ウォッチャー調査[2023年4月]

2023年4月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.1ポイント下回る55.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」の回答の割合が減少し、「4月から各商品の仕入価格や販売価格が値上がりしたことに伴い、客の買い控えが多くなっている。また、客の購入商品が中高級品から廉価商品に移行しているため、売上が減少している。」(自動車備品販売店)、「相次ぐ値上げで客が買い控え傾向にある。」

(通信会社)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.2ポイント下回る55.2となった。

企業動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「金属価格の下落や電子材料素材関係の受注減少が続いている。」(非鉄金属製造業)、「インフレが続き、需要が後退傾向にある。」(一般機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.5ポイント下回る51.6となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新規求人の受理件数は前年比で2.5%減少しており、新型コロナウイルス感染症発生前の3年前と比べても11%以上減少している。産業別にみると、運輸業や宿泊業が前年比20%以上減少している。」(職業安定所)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.5ポイント下回る62.5となった。

	4月	3月	前月差
合計	55.1	56.2	-1.1
家計動向関連	55.2	55.4	-0.2
企業動向関連	51.6	55.1	-3.5
雇用関連 (参考値)	62.5	65.0	-2.5

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.4ポイント下回る56.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「年内もまだ商品の値上げが続く。」(コンビニ)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.6ポイント下回る55.4となった。

企業動向関連は、「データセンターほか、取引先のICT関連商材への積極的な投資意欲が高くなっている。計画的な動きと新規への投資意欲がミックスしており、今後、景気は良くなる。」(通信業)、「脱炭素問題や地政学リスク等、問題は山積みだが、企業が政府主導でなく、主体的に行動してきていることから、日本経済は少しずつ良くなっていく。」(化学工業)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.8ポイント上回る56.5となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少したため、前月を6.0ポイント下回る60.7となった。

	4月	3月	前月差
合計	56.1	56.5	-0.4
家計動向関連	55.4	56.0	-0.6
企業動向関連	56.5	53.7	2.8
雇用関連 (参考値)	60.7	66.7	-6.0